

日体大学園祭で広報活動

神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長近藤一空）は11月2日（土）、日本体育大学建志台キャンパス（横浜市）で開催された「第53回日体フェスティバル2019」に参加し、高機動車・軽装甲機動車・偵察用オートバイの車両展示および募集広報活動を行った。天候にも恵まれ3台の車両展示コーナーには、多くの人が足を止め家族で写真撮影をしたり、車両について隊員に質問をしたりと盛況であった。高機動車を見た学生からは「初めて自衛隊の車を間近で見ました。迫力ありますね」と見慣れない車両に興味津々の様子だった。募集コーナーでは、進路未決定の4年生に對し来春から自衛隊で勤務できる道があることを大々的にアピールし、興味を持ってくれた4年生は、広報官から説明を受け自衛官候補生の受験を決めてくれた。また、1年生から3年生や一般の方へは予備自衛官補の案内を積極的に行った。初めてこの制度を聞いた学生からは「こんな制度がある」と知りませんでした。学生でも参加できるのはいいですね」と受験に前向きな姿を見せてくれた。



車両展示に多くの人が足を止めた自衛隊ブース

海自「中級管理講習」で予備自衛官志願を呼びかけ

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 夏井隆）は、11月8日（金）、海上自衛隊第2術科学校（田浦）で実施された「令和元年度予備4回中級管理講習」において、海自隊員89名に対する予備自衛官等の制度説明を行い、予備自衛官への積極的な志願及び部下隊員等への制度周知を呼びかけた。

本講習は、主に神奈川県に勤務している3佐以下の幹部及び准・曹で、かつ定年3年前までの退職予定自衛官を対象とし、社会への適応性啓発や退職後の生活の安定を図るために必要な知識を付与することを目的として実施されており、神奈川県は累次、本講習において予備自衛官等の制度説明を実施している。

当日は、予備自衛官等の処遇、訓練内容及び近年の自然災害による災害派遣での予備自衛官及び即応予備自衛官の招集状況について紹介した。特に、即応予備自衛官については、陸上自衛隊の予備自衛官を経ることにより海上自衛官でも志願が出来ることなど、実際に活躍している元海上自衛官の即応予備自衛官を例示して説明した。さらに、再就職先となる雇用企業の理解を得るための各種支援制度についても説明した。

神奈川地本は「予備自衛官等は防衛力の約2割を担う重要な位置づけであり、今後もあらゆる機会を通じて、予備自衛官及び即応予備自衛官の魅力を発信していきたい。昨年10月から土長以下の予備自衛官及び即応予備自衛官の採用年齢が拡大されたことから、これまで年齢制限で予備自衛官・即応予備自衛官への志願をあきらめていた方は、この制度改正を機会に積極的な志願をお願いしたい。志願を検討している方や制度について更に詳しく知りたい方は、気軽に神奈川地方協力本部予備自衛官課に相談して欲しい。」としている。



予備自衛官等制度について聴講する海自隊員

海老名・綾瀬地区家族会が地区から入隊した隊員を激励

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 野田3海佐）は11月12日（火）、海老名・綾瀬地区家族会の久里浜駐屯地研修を支援した。

研修は駐屯地広報班による概要説明、施設及び歴史館見学、体験喫食が行われ、特に会員の興味を惹いたのは、昭和14年の「旧海軍通信学校」創立時から現在も使用されている1号館で、高い天井と太い柱を有する重厚な造りと赤いじゅうたんの敷かれた暖かな内装に、会員は揃って圧倒された様子で歴史の重みを感じていた。

また同会は研修の最中、平成29年3月に綾瀬市から自衛官候補生として入隊し、現在は通信教導隊で勤務をしている山本優希陸士長を訪問し、激励した。山本士長は、「家族会の皆様がこんなに応援してくださっているのを知り、これからもさらに頑張ろうと思います」と感謝と決意の言葉を述べた。

会長の大槻氏からは、「地区から入隊した隊員が元気に勤務している姿を見るのがなにより嬉しく、今後も部隊で明るく元気に勤務してほしい」との心温まる言葉をいただいた。

厚木募集案内所は、「今後も駐屯地研修等の機会を通じて、自衛隊に対するご家族の理解を深めるとともに、防衛基盤の拡充に励んでいきたい」としている。